

平成 31 年 4 月  
発行：依田窪老人保健施設  
広報編集委員会  
〒386-0603  
小県郡長和町古町 3365-5  
TEL：0268-68-0281  
FAX：0268-68-0283

### 超強化型老健としての取組

依田窪老人保健施設は、平成 30 年 6 月から「超強化型」老健に移行しました。今回は、ご利用者やご家族との相談業務や、施設や地域との架け橋という役割を担う支援相談員から現在の取組状況をお知らせします。

誰しも住み慣れた自宅で生活したいという思いがあります。しかし、病気や怪我、老いにより難しくなることもあります。老健いこいは、平成 30 年 6 月より、「超強化型」老健となりました。在宅復帰・在宅支援を使命とし、生活の全てがリハビリであるという考えのもと、職員一丸となりサービスを提供しております。

超強化型として重点的に取り組んでいることとして、入所前にご利用者やご家族と、どこまで自立機能が回復すれば在宅生活が可能となるかについて、話し合いを行います。その内容を元に入所中のサービス目標を明確にし、在宅復帰に向けてリハビリを中心としたサービスを提供します。

また、いこいでは、安心して在宅生活が行えるように、退所後のサービスの相談をさせていただいております。通所サービス、宿泊サービス、配食サービス等々、実に多様なサービスがあります。それらをどう組み合わせれば、安心して在宅で

生活することができるといことも、在宅復帰の重要な要件です。

超強化型の要件の一つに、「在宅復帰率 50%超」とあります。いこいの在宅復帰率は現在 70〜80%で推移しています。この数値は、石橋施設長が掲げたテーマ「全人的ケア&全人的リハビリ」に全職員が取り組んでいる成果であると思います。

ご利用者、ご家族からは、リハビリで心身機能が向上し、在宅サービスが整うことで、「自宅はあきらめかけたけど、これならもう少し頑張れそうだ。」「仕事をしているけれど、通所サービスとショートステイを組み合わせたらどうにかなりそうだ。」との声をいただいています。いこいでは、既存概念を変えていくことを「リフレミング」と呼んでいます。

目標を持ち、生き活きと生活されている姿は、何よりもうれしく励みになります。今後も、ご家族との絆を大切に、地域の高齢者を支える役割を担っていきたいと思います。



施設カンファレンス

入所後 2 週間以内にカンファレンスを開催します。ご利用者の在宅復帰に向けての施設サービス計画について多職種で話し合い、今後のリハビリやケアの方針を確認します。

基本型		在宅強化型		その他型
	加算型		超強化型	
880単位	914単位	954単位	1,000単位	862単位
			加算 46単位	
	加算 34単位	基本報酬 954単位	基本報酬 954単位	
基本報酬 880単位	基本報酬 880単位			基本報酬 862単位

※超強化型老健について

平成 30 年 4 月の介護報酬改定で、老健は上の図のとおり 5 つに分類されました。

当施設は、昨年の 6 月より「超強化型」に移行しています。

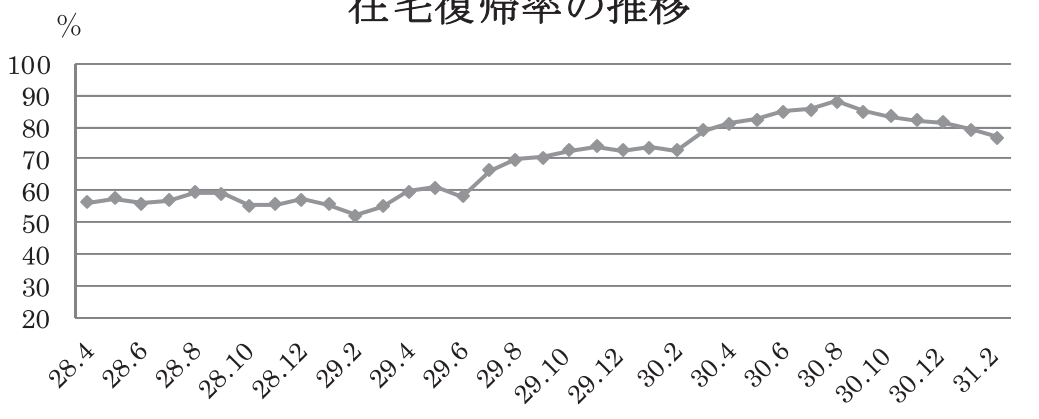
**平成 31 年度の予算は、4 億 9 千 550 万円になりました。**  
3 月 25 日、依田窪医療福祉事務組合議会 3 月定例会が開かれました。老健いこいの関係では、平成 31 年度特別会計予算案や、平成 30 年度補正予算案が審議され可決されました。平成 31 年度予算は、超強化型老健算定に伴う加算の増や、通所リハビリ関連加算の増を見込み、対前年度 2.2%、1 千 50 万円の増額予算となりました。

平成 31 年度予算概要

単位(万円)	
歳入総額	49,550
施設サービス料収益	20,890
居宅サービス料収益	16,362
食費・居住費収益	5,856
市町分担金	6,252
その他	190
歳出総額	49,550
給与費	32,272
材料費	2,761
経費	6,913
委託金	1,195
償還金	6,252
その他	157

※表示単位未満を四捨五入しています。

### 在宅復帰率の推移



在宅復帰率は前 6 か月の平均値です。平成 31 年 2 月現在の 6 か月平均は 76.6%です。

第10回 施設内研究発表会

研修・研究委員会

3月8日(金)、施設内研究発表会が行われました。今年度の研究発表会は老健いこいのテーマである「全人的ケア&全人的リハビリ」に沿って、1年間を通して各ユニットが取り組んできた中から、その成功事例についての発表がありました。ユニットの取り組みがどのように評価されるのか、他のユニットはどんなことを行ってきたのかと、職員の関心が高く自己研鑽を図るためにも有意義な発表会となりました。

Aユニットは「同じ目標をもつことの重要性～やる気・ADLの変化～」

Bユニットは「ICFを活用した全人的ケアの取り組み」

Cユニットは「家族を含めたチームケアによる全人的アプローチ」

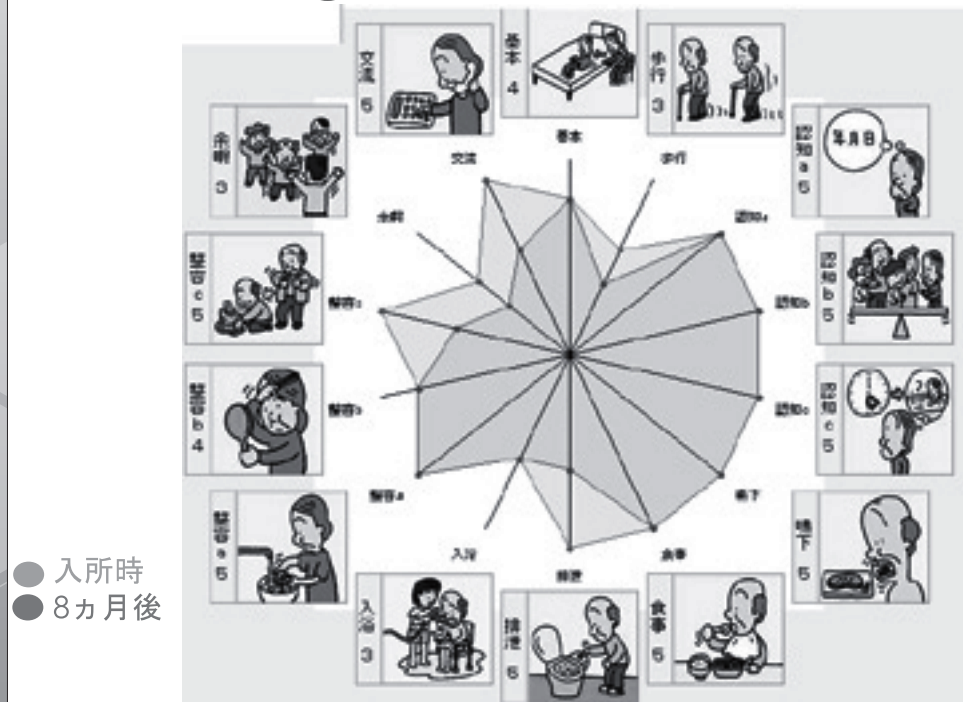
通所リハビリテーションセンターは「ホームエクササイズの取り組みの効果～元気に在宅生活を継続するために～」というテーマでの発表でした。

今回の最優秀賞はBユニットでした。石橋施設長の講評では、どのユニットもスライドの作り方が上手くなっていて発表の主旨・目的が鮮明に表現されていて良かった。4つのユニットの発表を聞いて全人的な取り組みの中で鍵を握っている物は何か、ポイントとなる物は何か、それは利用者・家族・職員の想いが一体化すること。三位一体となってお年寄りに生きる力を与えられるようなケアを提供し、お年寄りにとって自分の命がこんなにも大事にされていると感じられるようなケアやリハビリを、職員の皆さんには目指して欲しいと話がありました。

これからのケアやリハビリにつながる良い研究発表会になったと思います。各ユニットの取り組み、石橋施設長の講評を全職員が自分の心にしっかりと捉え、ケアに取り組んでいけたらと思います。研修・研究委員としてもさらなる職員の研鑽の為に、研究発表のあり方・方針をもう一度確認し、職員研修の中心的な役割を担っていきたいと考えています。

これからのケアやリハビリにつながる良い研究発表会になったと思います。各ユニットの取り組み、石橋施設長の講評を全職員が自分の心にしっかりと捉え、ケアに取り組んでいけたらと思います。研修・研究委員としてもさらなる職員の研鑽の為に、研究発表のあり方・方針をもう一度確認し、職員研修の中心的な役割を担っていきたいと考えています。

事例報告①



Bユニットのスライドから  
入所時と8ヵ月後のご利用者の状態変化

■ 人事異動

3月31日、4月1日付で人事異動がありました。

4月1日付の異動では、通所リハビリテーションセンターのさらなる充実を図るためセンター長のポストを設け、そこに森田前老健看護師長を充て、後任に併設病院から藤田看護師長が着任しました。人事異動の内容は次のとおりです。

○3月31日付(定年退職)

▽岡村武文(上田市派遣、事務局長)▽櫻井延子(副看護師長)▽小林幸代(主任介護員)

○4月1日付

▽通所リハビリテーションセンター  
センター長 森田優美子

▽看護師長 藤田千恵

▽理学療法士 大塚健太(老健↓病院)

▽理学療法士 常田雅幸(病院↓老健)

【臨時職員】

▽事務局長(嘱託) 岡村武文  
▽看護師(通所) 小松 恵  
▽介護員(入所) 小林幸代

★ 編集後記 ★

春は「三寒四温」と言われるように、寒さと暖かさが交互に繰り返されます。本来であれば2月〜3月ごろに使われる言葉ですが、今年は4月になってもその言葉が当てはまりました。

新元号が「令和」と決まりました。令和には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。」という意味が込められているとのこと。誰もが希望や夢をもって幸せに暮らせる、そんな時代となることを期待します。